

町としての外部に 発信力のある長期的戦略は

町長 町民一丸となって地域の誇りをPRしていく



問 井上町政になり、U・I・ターンの初年度の5倍の伸びを示し、成果が上がっているが、その具体的理由は？

答 奨励金の増、子育て環境の整備、空家バンクといった政策面に加え、何よりも地域の皆様のいろんな取り組み、活躍によって全国に対する情報発信もU・I・ターンの増につながっていると思う。

問 U・I・ターンした方々への情報収集、情報提供、その意見集約はなされているか。

答 地域振興課に定住支

援員と定住相談員を配置し、体制を整えたところだが、私が直接に意見を聞く場を作っていく検討もしたい。

問 今後についてU・I・ターンの促進のための具体的な強化策は？

答 さまざまな施策も打ってきているが、さらに充実、強化していく必要もあると思う。役場だけでなく、いろんな場で町民の皆様も巻き込んで議論が必要だ。今庁舎内で議論が出ているのはU・I・ターンについては3世代同居型の増改築に対する行政の支援策が何かできないものか考えている。

問 住居という面では条例を定めて空家を管理している自治体もあるようだ。ソフト面では溶け込みやすいサポートが必要、実際にU・I・ターンした方々の意見に耳を傾けることは大事だと思う。私も参加したいが、その中に大きなヒントがある。意見を分析し今後活かせるものを導き出して頂きたいし、システムとして確立をして頂きたい。

次に町としての長期的戦略について

平成23年に出された10年計画「奥出雲町総合計画」の進捗状況は？

答 実質2年が経過した。現段階で進捗状況を把握することはしていないが、5カ年過ぎると10年で中間報告として取りまとめ、次の5年に向けてローリングしていく。きちんと管理していきたい。

問 任期4年にとらわれないで、この町の大きな幹となる長期的ビジョンを構築することが必要だ。「奥出雲町総合計画」は奥出雲町を知る人にはいいが、知らない人にインパクトを与え印象付ける性格のものではない。私は外部に発信力のある紋り込んだ、わかりやすいイメージ戦略というものが必要だと思うが、町長の考えは？

答 予算化をして大々的には難しいが、あの手この手の情報発信に、行政だけじゃなく市民が取り組んでいって頂きたい。



平成23年に出された「奥出雲町総合計画」

東大阪の青木豊彦さんの講演会にもあったが、一部の行政や議員だけじゃなく、町民一丸となって地域の誇りをPRしていくこと。そういうことも含めて発信戦略等をさらに考えていきたい。

問 暮らしに直結するイメージ作りが必要ではないか。具体的にしなければいけません。具体的な決意が必要になるし、継続するには町民の皆様と理解と協働が必要だ。勇気を持ってスローガン掲げることが町の魅力になると思う。

答 ごく自然体で宣伝力を入れることなく、実質が上がっていくような取り組みをやっていきたい。そのための施政方針だし、総合計画にも書き込んでいく。みんな議論しながら慎重に対応していきたい。